

本院で慢性腎臓病の治療を受けた 患者さん・ご家族の皆様へ

～本院腎臓外科・泌尿器科で2012年9月30日～2017年8月31日の間に採血され、
研究用に利用された余剰検体の残りおよび臨床情報の医学研究への使用のお願い～

【研究課題名】

ナノエレクトロニクス
nanoLC-QTOF/MS法^{*1}によるヒト血漿中循環器ペプチド^{*2}濃度の高感度同時定量法の臨床適応性の評価－慢性腎臓病患者への適応－

^{*1}nanoLC-QTOF/MS法とは、特定の物質を測定する手法であり、今回の研究では循環器に関連したペプチド濃度を測定するために用いられます。

^{*2}ペプチドとは、2個以上のアミノ酸が結合してできた物質をさします。

【研究の対象】

この研究は以下の方を研究対象としています。

大分大学医学部附属病院（当院）において生体腎移植術を受け、2012年9月30日～2017年8月31日の間に「腎移植患者における移植後のCYP3A活性の変動に関する研究」に同意された方

【研究の目的・方法について】

近年、心臓や血管、体液量の調節に関与する数種類のペプチドの^{けっしょう}血漿中濃度が、腎疾患や呼吸器疾患、心血管疾患、感染症などの病気と関連することが報告されています。その代表的なペプチドとして、^{エムアール プロエーヌヒ}MR-proANP、^{エヌティー プロヒ}NT-proBNP、^{エムアール プロエーティーエヌ}MR-proADM、^{シーティー プロエーティー}CT-proET-1 および ^{シーティー プロエービー}CT-proAVPが特に注目されています。通常、これらの血漿中濃度は、それぞれのペプチドに結合する抗体というものをを用いた測定法が利用されますが、類似した物質にも結合してしまうなどの問題点があります。この問題点を解決するために、本研究では nanoLC-QTOF/MS という手法を用いて、血漿中 MR-proANP、NT-proBNP、MR-proADM、CT-proET-1 および CT-proAVP 濃度を同時に測定可能な方法を確認し、慢性腎臓病患者さんを対象に測定することが可能か評価することを目的としています。

研究期間：2022年2月25日～2024年12月31日

【使用させていただく試料・情報について】

別研究である「腎移植患者における移植後のCYP3A活性の変動に関する研究」を実施した際に使用させていただいた血漿の残りを本研究へ応用させていただきたいと思っております。その際、循環器ペプチド濃度と診療情報との関連性を調べるために、患者さんの診療記録（性別、年齢、既往歴、基礎疾患、身長、体重、BMI、体温、血圧、血液検査値、使用薬剤）も調べさせていただきます。なお患者さんの血漿（試料）及び診療記録（情報）を使用させていただきますことは大分大学医学部倫理委員会において外部委員も交えて厳正に審査・承認され、大分大学医学部長の許可を得て実施しています。また、患者さんの試料および診療情報は、国の定めた「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に従い、匿名化したうえで管理しますので、患者さんのプライバシーは厳密に守られます。当然のことながら、個人情報保護法などの法律を遵守いたします。

【使用させていただく試料・情報の保存等について】

本研究で使用する血漿は本研究の共同研究機関である明治薬科大学薬剤情報解析学研究室へ解析のために送付し、同研究室にてこの研究の論文発表後5年間厳重に保管します。診療情報については、本院の電子カルテシステムにて論文発表後10年間保存します。また、明治薬科大学薬剤情報解析学研究室に送付する慢性腎臓病患者さんの情報が含まれたCD-ROMについては、同大学研究棟235室で論文発表後10年間適切に管理します。保存期間終了後は、血漿は焼却処分し、紙の資料については、シュレッダーにて廃棄し、パソコンなどに保存している電子データは復元できないように完全に削除します。

【外部への試料・情報の提供】

本研究の共同研究機関である明治薬科大学への患者さんの試料・情報の提供については、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。なお、明治薬科大学へ提供する際は、研究対象者である患者さん個人が特定できないよう、氏名の代わりに記号などへ置き換えますが、この記号から患者さんの氏名が分かる対応表は、大分大学医学部附属病院薬剤部の研究責任者が保管・管理します。なお、取得した試料・情報を提供する際は、記録を作成し大分大学医学部附属病院薬剤部で保管します。

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

大分大学医学部附属病院 薬剤部 准教授・副薬剤部長 田中 遼大

【患者さんの費用負担等について】

本研究を実施するに当たって、患者さんの費用負担はありません。また、本研究の成果が将来医薬品などの開発につながり、利益が生まれる可能性があります。万が一、利益が生まれた場合、患者さんにはそれを請求することはできません。

【研究資金】

本研究においては、明治薬科大学薬剤情報解析学研究室の消耗品予算を用いて研究が行われます。

【利益相反について】

この研究は、上記の公的な資金を用いて行われ、特定の企業からの資金は一切使いません。「利益相反」とは、研究成果に影響するような利害関係を指し、金銭および個人を含みますが、本研究ではこの「利益相反（資金提供者の意向が研究に影響すること）」は発生しません。

【研究の参加等について】

本研究へ試料（血漿）および診療情報を提供するかしないかは患者さんご自身の自由です。従いまして、本研究に試料・診療情報を使用してほしくない場合は、遠慮なくお知らせ下さい。その場合は、患者さんの試料・診療情報は研究対象から除外いたします。また、ご協力いただけない場合でも、患者さんの不利益になることは一切ありません。なお、これらの研究成果は学術論文として発表することになりますが、発表後に参加拒否を表明された場合、すでに発表した論文を取り下げることはいしません。

患者さんの試料・診療情報を使用してほしくない場合、その他、本研究に関して質問などがありましたら、主治医または以下の照会先・連絡先までお申し出下さい。

【研究組織】

【本学（若しくは本院）における研究組織】

所属・職名	氏名
研究責任者 大分大学医学部附属病院薬剤部	

	准教授・副薬剤部長	田中 遼大
研究分担者	大分大学医学部附属病院薬剤部 薬剤師	岩男 元志
	大分大学医学部附属病院薬剤部 副薬剤部長	龍田 涼佑
	大分大学医学部附属病院薬剤部 教授・薬剤部長	伊東 弘樹

【研究全体の実施体制】

研究代表者	大分大学医学部附属病院薬剤部	田中 遼大
研究分担者		
	明治薬科大学薬剤情報解析学研究室	大野 恵子
	明治薬科大学薬剤情報解析学研究室	鈴木 陽介
	明治薬科大学薬剤情報解析学研究室	小田 絢子
	明治薬科大学薬剤情報解析学研究室	吉島 千智
	明治薬科大学薬剤情報解析学研究室	根上 純
	明治薬科大学薬剤情報解析学研究室	遠山 大樹
研究事務局	大分大学医学部附属病院薬剤部	田中 遼大

【お問い合わせについて】

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住 所：〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘 1-1

電 話：097-586-6113

担当者：大分大学医学部附属病院薬剤部 准教授・副薬剤部長

田中 遼大 (たなか りょうた)